



埼玉県議会 / 無所属刷新の会

(桶川市・伊奈町)

埼玉県議会議員

小野 克典

県政報告レポート (号外)

《ホームページ》 <http://homepage1.nifty.com/ono-katsu/>

討議資料

平成20年2月発行

埼玉県議会

無所属刷新の会

(桶川・伊奈支部)

小野克典事務所

〒363-0008

桶川市坂田 652-1

TEL048-729-1666

FAX048-728-1151

県議会有志により、長崎県対馬を視察 (2月9日~10日)

長崎県対馬は福岡から約130km、韓国の釜山から約50kmに位置するまさに国境の島です。南北約82km、東西約18kmの島で、89%が山林に覆われており、林業・漁業が主な産業ですが、価格の低迷や、燃料高騰等によって、危機的な状況にあるといわれております。また、経済状況の悪化などにより、毎年1,000人前後が離島し、過疎化に拍車がかかり、一時は7万人近くいた人口も、現在は3万7千人程度になっています。



陸上自衛隊対馬警備隊を訪問

(対馬警備隊長の安藤1佐と県議会有志視察団)

そうした中、韓国人観光客が押し寄せ、島の土地を韓国資本の買収が始まりました。韓国から観光客が来て、島の経済が活性化し、韓国との友好的な交流が図れるのであれば、とりわけ問題はないと思いますが、外国資本に対馬の土地を買い占められるようなことがあるとすれば、国の安全保障の面においても重大な問題であります。対馬には陸・海・空の自衛隊基地が配備されていますが、海上自衛隊基地のすぐ裏手の土地は韓国資本に買収され、韓国資本のホテルが建っており、海岸線はフェンス一つを隔てて基地の隣も韓国資本のマリーナがあり、あまりにも無防備すぎる現状に唖然としました。

対馬のような国境に面した島においては、外国資本の土地の買い占めを認めないなど、新たな法整備(防人の島新法)の必要性を強く感じました。また、同時に対馬に配置されている自衛隊基地の増強をはかり、合わせて、きれいな海に囲まれた対馬の素晴らしい自然を残しながらの国内向けの観光政策に力を入れていく等の早急な対策が必要不可欠であると思いました。

我々が視察した時は、ウォン安の影響なのか韓国人観光客の姿もほとんどなく、街中は閑散としていましたが、国境の島としての歴史を感じる美しい島でした。

2月定例議会は2月23日(月)から開催される予定です

次回開催の2月定例議会において、小野克典は予算特別委員として、平成21年度予算案に対する質疑を行います。県財政も減収が見込まれる中、大変厳しい財政状況ではありますが、いろいろな視点から将来の県政発展につながる展望や、桶川・伊奈の地元における課題などについて質疑いたしたく思いますので、皆様からのご意見・ご提言などございましたらお気軽にお寄せ下さい。

(参考資料)

2月4日 埼玉新聞



2009年度県当初予算案

一般会計1兆7000億円

前年度比1.3%減 県税収入も 連続マイナス

県の二〇〇九年度当初予算案が三日までに、ほぼ固まった。一般会計の総額は一兆七千億円で、前年度比一・三％マイナス。県税収入は前年比約千二百億円の減の七千億程度で、二年連続のマイナスとなる見通し。厳しい編成の中で県は「埼玉版グリーン・ニューデール」と銘打ち、太陽光発電設備や次世代自動車導入・普及を通じ「環境配慮型の内需拡大」を目指す構えだ。(中略)

内需拡大予算目指す

歳入のうち地方交付税は千八百億程度、同比七十億円のプラス。県の借金に当たる県の発行額は同比三百八十億程度増えて三千億程度に上り、三千億円を超える見通し。財源調整のためには県債発行を四基金から計四百億程度を取り崩す。太陽光発電設備の普及で

事業もスタートさせる。県財政課によると、昨年末に各部署から提出された一般会計の要求総額は一兆七千六百十三億円で、〇八年度当初予算(一兆七千八百八十一億)比で一・七％減だった。県は福祉・医療関係費や退職手当の増大などから、予算編成方針を示した昨年十月時点で千四百四十六億円の収支差を見込んでおり、苦しい調整作業を余儀なくされた。

上田清司知事は「県民の生活を守るセーフティネットを後退させることはできない」と医療・福祉、緊急経済対策などに力点を置いた編成方針を示し、一月十一日から同二十八日にかけて予算案の知事審査に臨んでいた。

「旧陸軍桶川飛行学校」の遺構保存と活用を求める要望書を「桶川飛行学校を語り継ぐ会」の臼田会長らとともに岩崎市長に提出しました。署名も約14,000を超え、全国からも遺構保存と活用に対する応援の声が届いております。署名にご協力いただきました皆様には心から感謝申し上げますとともに、今後も語り継ぐ会の活動へのご協力を、よろしくお願いたします。

参考資料：埼玉新聞 (2月7日) →

陸軍飛行学校保存を1万4千の署名で要望
桶川市長に語り継ぐ会
旧陸軍の熊谷陸軍飛行学校桶川分教場(桶川市川田谷)の保存を求める「旧陸軍桶川飛行学校を語り継ぐ会」(臼田哲子会長)は六日、署名約一万四千筆を添え、遺構の保存と活用を求める要望書を岩崎正男桶川市長に提出した。

同会によると、分教場跡は広さ約九千五百平方メートル。要望書では「陸軍航空の飛行学校施設のうち、国内唯一のものといつても過言ではない」「歴史的な価値は極めて高い」と



熊谷陸軍飛行学校桶川分教場の保存を求める要望書を手渡す臼田哲子会長(中央右)と岩崎正男市長(同左)ほか関係者

話をした。これを受けた岩崎市長は「平和を語り継ぐ場所として残せるように最大限の努力をしたい」と述べた。関係者の理解を得ながら国や県などと協議して利用計画を作り、道路用地や市が取得すべき土地を決める必要が生じてくるという。

同席した地元市議や県議は、サイクリングロードとの関連や道の駅のような形の活用を話していた。(築井有)